



www.sophiakai.jp/blog/economyan/

2011年のご挨拶と抱負

昨年度は、経鷲会のために、ご協力をいただき、誠にありがとうございました。経鷲会は、戸川前会長のリーダーシップのもと、平成会員を中心としたネオソフィアンの会を筆頭に、ソフィア経済人倶楽部をも立ち上げ、経鷲会が基軸となつて上智大学の学部横断的組織としてソフィア会に大きく貢献する、14,000人強の経済学部卒業生のための会へと、発展してきております。更なる飛躍を目指して、戸川前会長が築かれた軌跡を継承するとともに、確固たるものとするを念頭に、以下の具体的な活動を行なっていきます。

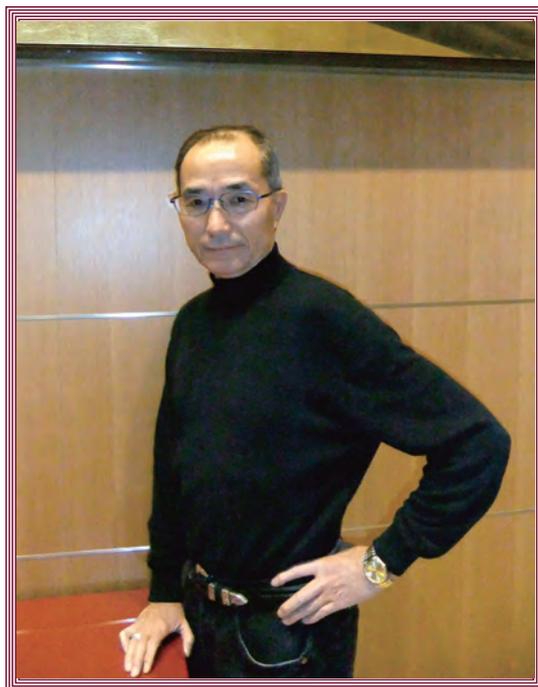
・経済学部との更なる協力関係強化

経鷲会 20周年を契機に充足した、現役経済学部生、研究生への資金援助としての“研究奨励金制度”の継続。毎年50万円を上智大学100周年記念募金室を経由して贈呈しております。又、経鷲会会員の中の企業人が、毎年、現役学生には、理論と実践をすくなくとも学ぶ機会をと、経済学部の特別講義に非常勤講師として貢献、これからも継続していきます。

・会員/準会員とのタイムリーなコミュニケーション

経鷲会ブログ/エコノミアンの充実、ツイッター/フェイスブックなどのIT活用、月例ソフィアンズネット・ワインセミナー、現役学生とのカジュアルサロン/フォーラム、ネオソフィアンの会の経済学部卒業生並びにソフィア経済人倶楽部との連携を密にしながらたえずコミュニケーションを図っていきます。さらに、上記の活動をとおして、メーリングリスト、データベースの充実を図り、会費収入増、協力金/寄付金などの充実いたるよう、さらなる努力を実践していきます。

経鷲会は、益々大きな、又、ソフィア会を支えていく中心的組織となっていくことは確実です。従って、皆さんの積極的な会への参加、サポートはますます重要ですので、会の活動理念などよくご理解頂き、ご協力のほどよろしくお願い致します。



経鷲会会長 三木真弘

第2回 研究奨励金授与式ご報告



2010年11月初め、第2回、研究奨励金の授与式が執り行われました。授与者は下記の5名の方々です(アイウエオ順)。

- 経営学科3年 尾上 幸(オウエサキ)さん
- 経済学科3年 神山 恵理(カミヤマエリ)さん
- 経済学科3年 野口 奈央(ノグチナオ)さん
- 経済学科3年 日榮明日菜(ヒエイアスナ)さん
- 経営学科3年 山本 友美(ヤマモトトモミ)さん



おめでとうございます!



研究奨励金への寄付の御願い

この研究奨励金は、経済学部の成績優秀な学生に対して行う制度で、上智大学募金室を通じ、経済学部にお支払いしております。これからこの活動を活性化させていくためにも、皆様の寄付のご協力を宜しく御願い申し上げます。

また、経鷲会会費(年会費¥3,000)の納入も合わせて引き続き、どうぞ宜しく御願い申し上げます。尚、寄付を頂ける場合はその旨、お振込の際に、「ショウレイキン」と明記くださいませ(奨励金は1口2,000円以上で御願いたします。)

振込先: 郵便局 口座名: 上智大学経鷲会 口座番号: 00150-8-537559



Mr. Richard Collasse

ソフィア経済人倶楽部では、昨年11月の終わりに、シャネル日本法人社長のリシャルコラス氏にお話を伺うことができました。タイトルは「日本は人道主義社会の世界モデルになりうるか?」。日本への造詣の深いコラス氏の話に参加者全員が引き込まれるように聞き入った講演会。その内容をお届けします。

● 日本との出会い ●

私は7歳から高校卒業までを父の仕事の関係でモロッコのカサブランカで過ごし、そこで非常に恵まれた教育を受けてきました。モロッコという国は、北アフリカのイスラム圏では一番豊かな考えの国。ユダヤ系の子供たちも回りに多く、友人の父はモロッコの厚生大臣を務めていたりして、宗教に対してとてもオープンな国でした。モロッコの学校ではキリスト教、イスラム教、ユダヤ教とすべての宗教の祝祭日が休みだったので、宗教は一つより複数あったほうがいいな、と子供心に思ったものです(笑) 多様性を実感として理解することができました。

私と日本の出会いについてお話しますと、幼い頃からカメラが好きなお子でもでした。購読していた『フォト』という雑誌のなかで有名なカメラマンたちの多くが使っていたのが日本のニコン。13歳のときにはメイド・イン・ジャパンのトプコンの一眼レフカメラを欲しがって、アルバイトをして自分で手に入れたこともあります。私と日本の関係はカメラというオブジェ、つまりモノから始まったのです。文化というより、まず日本の技術に惹かれたのです。そんな時、高校卒業してから大学に入るまでの休みでしたが、ブラジルでインディアンと共に生活している父の友人からカメラマンとして休みの間アマゾンで過ごさないかと誘いを受けました。いろいろな文化と接触することの素晴らしさをモロッコで学んでいたので行ってみたかったのですが、心配症の母は息子がアマゾンから生きて帰ってこられるか、生きた心地がしないと言うので、結局断りました。

休みの間はいつものように、父が機長をしているエールフランスでアルバイトをしようかとも思いました。そんな時、父から日本を観に行つてはどうかと勧められたのです。日本は文化も歴史もあるがモダンティもある、と。正直日本への興味はあまりなかったのですが、あのニコンをフランスより安く手に入れることができるという理由も手伝って、日本へ40日間の旅にでました。そして、この国の文化や歴史もとても好きになりましたが、それよりなにより日本人の優しさ、日本人の国民性そのものに心が動いたのです。私は当時日本語がまったくできなかつたのですが、出会う人出会う人、日本人は一生懸命に接してくれました。日本人はシャイだからホームステイは無理と聞いていましたが、滞在中次々と助けてくれる人が現れて、結局40日間一度もユースホテルを利用することはありませんでした。フランスに戻って大学に入ったら政治を学ぶつもりでしたが、こんなに素晴らしい国民性の日本人をもっと知りたくなり結局日本語を専攻しました。そしてもうこの国に40年いるのですから運命とは不思議だなとつくづく思います。

● ヒューマニズム・日本人と文化について ●

カトリックに生まれ、イスラム、ユダヤにかこまれて育つたというバックグラウンドから、日本に来て仏教にも興味を持ちました。我が家ではすべての宗教の祭りを祝っていますから、妻は大変ですよ(笑) 仏教とキリスト教、ユダヤ教には共通点が多いと感じています。言葉や表現は違いますが、神様といいながらも人間を中心とした哲学が私は好きですね。

5年前からお遍路を始めましたが、長い休みはとれないので少しずつですが粘り強く、今やっと33番まできたところです。一般的には5月が人気ですが、人の少ない真冬の静かな時に好んで歩いています。お遍路はまだ知らない日本に出会えるところも好きです。40年いても未だに日本を表面しか見ていないと感じていてそれが悔しい。もっと掘り下げて勉強したい、次々に知りたいことがでてくるのです。なぜお遍路の話をするかという、私は日本人に怒っているのですよ。

日本人は自国の文化を蔑ろにしていらないでしょうか。文化に誇りを持っていないということではないですが、自分の中に彫りこんで一緒に生きるということをおぼえていると思うのです。あなた方の国には美しく、深く、特徴のある文化があります。それを活かして欲しいのです。子どものころから茶道をたしなんでいる妻のために、5年前鎌倉の家に茶室をつくりました。彼女は知人に戴いた18世紀の立派な釜も持っていますが、まだ一度も茶会を開いていません。聞いてみると茶会を開くには何週間も準備なくちゃいけないし、当日も忙しいし、由緒ある釜を使うのも恐れ多くてできないと。それならば私が自分でやると言い出して、ここ一年ですがお茶を勉強しています。伝統というのは正しく受け継いでいくことも大切ですが、それは家元のようなその道の専門家に任せればいい。我々一般人にはできません。現代の生活に馴染むような形で活かすことも良いのではないかと思います。だから私はお茶のマスターを目指していません。友人が来た時には茶室でおもてなししたいなと思ってやっています。触発されて妻は最近またお茶を勉強していますよ。

それから、フランスは世界中にフランス文化センターを持っていますが、日本は海外にそういった自国の文化を紹介する場所がありません。フランスにでさえ12年前にできたばかりです。日本人は自分たちの文化を紹介したくないのでしょうか。傲慢な一面ですね、日本の文化は難しくわかってもらえないだろうという。もしくは、まだ鎖国しているのかもしれない(笑)。

● グローバリゼーションについて ●

欧州ビジネス協会の会長をさせていただいていた時、小泉首相（当時）に、実はフランスは島国ですよと冗談を申し上げたことがあります。小泉首相は大陸の交差点ではないですかとおっしゃったけれど、かつてフランスは文化的にも経済的にも島国だったのです。アクサやロレアルさえもローカルな企業でした。しかし欧州ができて我々を守る様々な非関税はなくなり、変わらざるを得なくなった。ローカル企業の競争力があがりました。フランスのマインドのメカニズムが変わったのです。

好き嫌いは別にして、グローバリゼーションは避けられません。舞台は世界です。だから言葉、とくに英語がしゃべれないとだめですね。今、若い日本人は外へでたがらない。外務省の職員でさえ海外赴任を望まない人もいますと聞きます。若い人たち、目を覚まさない！このままでは茹で蛙になってしまいます。確かに日本はコンフォータブルです。けれど二十歳のときには夢をもたないとだめですよ。世界を回るべきですよ。私もかつて日本にやってきて言葉が通じない人たちと心が通じるように腹で話して、そうやって自分を育てました。それがなければ自分は育たないと思います。

リーマンショックでアメリカ型の株主／お金を中心にした資本主義がうまくいかないことが分かった。残っているのはヨーロッパ型もしくは日本型の人間を中心にした社会を守る資本主義です。5年前欧州ビジネス協会会長のとき、日本とEUにEIA（経済統合協定）を提案しました。当時日本は世界2位の競争力で、EUは6億人の豊かな人口のあるマーケットでした。急成長するBRICsが本格的に入ってくる前に、我々の持つ価値観を守るため協定を結ぶべきと申し上げました。その時は日本の行政機関や経団連に笑われました。コラスさん、ヨーロッパに対して唯一ある問題は関税障壁だけとおっしゃった。確かに今日本の電子電気製品をヨーロッパに輸出するときは10%です。私も、関税は取り払ってゼロにするべきという考えです。日本の自動車は自由にヨーロッパに輸出できるべきだ。ただし、日本の主張は、ヨーロッパは輸入する時、関税障壁がないじゃないかというんですね。確かにヨーロッパの自動車は関税率ゼロ。例外もあって、我々の業界は革製品には税率や制限があるんです。日本が関税率を0にしてもらうには、ギブアンドテイクにしないと、永遠に日本の商品は10%払わざるをえないんですよ。そのためには非関税障壁を取っ払うべきですが、日本は非関税障壁があることを認めません。けれど事例は山ほどあります。例えば食品の賞味期限

は、世界中たいがい年月の間はスラッシュを使うのに日本は点！笑うけれどこれ会社はコストかかるし大変なんですよ。あきらめている企業もたくさんあります。

フランスの携帯電話のシェアはSAMSUNGが35%でトップです。SAMSUNGはテレビのシェアも32%です。最近韓国とEUはFTAにサインをしました。皆さん、5年後、日本の蛙が眠っている間に、ヨーロッパでは、韓国のものは0パーセント、日本のものは10パーセントの関税率で買う。どちらが勝つと思いますか？私は5年前に提案したのですよ。繰り返しになりますがこれからの日本はどうあるべきか、グローバリゼーションは良い悪いは別として避けられないことです。舞台は世界になってしまった。その舞台で戦っていくためには、アイデンティティは保ちながらも、古い考えを捨てなければいけません。

シャネルが中国でアンケートをとったのですが、中国人が一番行きたい国はフランス、二番は日本という結果でした。日本人が思っているより日本は彼らにとって憧れの国です。クールジャパンのように最近の文化も人気があるし、一方で京都や奈良の繊細な日本文化をみたいと思っている。ある意味では中国人が自分の文化のアイデンティティを求めて日本にやってくる。歴史のブーメラン効果ですね。だからこれから日本は観光国として、準備をしないといけないと思います。中国語の勉強、インフラの整備、旅館などの宿泊施設のフレキシビリティも必要です。フランスは年間7,500万人の観光客が訪れ、観光産業が実にGDPの10%を占めています。フランスの田舎の風景が美しいのは、それを守る法律があるのです。日本の美しい風景をコンクリートでこれ以上醜くすることはやめていただきたい。

私は鎌倉の観光大使を拝命していますが、個人の所有する素晴らしい日本家屋や美しい小路がなくなりつつあります。お寺だけでなく、そういった個人の所有物も含めて国の遺産だと思うのです。自分の国に誇りを持ってください。日本の持っている素晴らしい価値観を尊重し、それを実現してくれる政府を選んでください。だから憲法を変えて直接選挙にして総理大臣は自分で選ぶようにしなければだめと思っています。そうしないと大きなリーダーが生まれてこないと思います。外国人がこんなことを言うのは申し訳ないですが、経済産業省に呼ばれた時も同じことを言いました（笑）一人の外国人が言っても何も変わりませんが、皆様方にはできることです。この素晴らしい国、この民族を活かすために、団塊の世代も若い世代も皆で頑張っていたいただきたいと思います。

Mr. Richard Collasse (リシャル・コラス氏)

シャネル株式会社 代表取締役社長

1981年ジバンシイの日本法人設立を皮切りに、1985年からはシャネルで活躍、1995年からは現職。日本における高級ブランドビジネスの発展と成功に中核的な役割を演じてきた氏は、1999年在日フランス商工会議所会頭、2002年からは欧州ビジネス協会会長を歴任、フランス国家功労シュバリ工章、レジョン・ドヌール章、日本政府からは旭日重光章をそれぞれ受章されています。

タンザニアでのボランティアを終えて

2011年卒 (経済・経営) 畠山 菜月

経鸞会研究奨励金制度、第1回目の受賞者である畠山菜月さん。畠山さんはNICEという、国際ワークキャンプを紹介している日本のNGO団体に登録し、UVIKIUTAというタンザニアのNGO団体主催のワークキャンプを紹介されて今回の国際協力プロジェクトに参加されたそうです。国際協力の舞台で得た新鮮な感動や思いを文章で寄稿して頂く事ができました。

キリマンジャロ山の麓の村で、タンザニア人7名を含む計13名のグループで教育支援ボランティア(英語やスポーツを子供に教える、学校のベンキを塗る)を行いました。中でも、現地の若者と共同してワークを行い意見交換ができたことが、滞在をより奥深いものにしたと感じています。

そもそも私は「機会の平等」の実現を夢見て今回参加しましたが、タンザニアでの約1カ月の滞在を終えた今、自分の無力さをただただ痛感しています。というも、学びたいのに学べない、働きたいのに働けない同年代の友人を目の前にして、私は何もしてあげられなかったからです。生まれ育った環境が違うというだけで、こんなにも手に入れられる機会に差が出てしまうのか、と胸が痛み、何とか助けてあげたいと思いました。

私の友人の一人は、母親の病気により、せっかく通っていた大学を辞めなければなりません。彼は自ら小さなビジネスを始め、2年かけて学費を貯め、大学に進学することができたのですが、今ではビジネスを再開する資金すら残っていないとのことでした。

ある日、その友人に「アフリカが日本みたいに発展するのに、どれくらいかかると思う?」と聞かれ、私は「10年くらい。」と答えました。世界がめまぐるしく変化している中で、それは十分起こりうることだと思ったからです。しかし、彼は「10年! そんなのあり得ない。僕は100年、200年かかると思うよ。」と言っていました。この回答は、今の状況から抜け出すことが彼にとってどれだけ大変なことなのか、示しているようでした。



筆者中央

私たちに違いはありません。寧ろタンザニア人はワーク中、真面目に一生懸命働いていましたし、学習に対する意識は非常に高いです。それなのに、生まれ育った環境が違うというだけで、こんなにも手に入れられる機会に差が出てしまうのか、と胸が痛みました。

一方でタンザニアでは子供も大人も、外国人に対し「これいいね！頂戴。」と平気な顔をして物、時にはお金を要求してくることがよくあります。この場面に遭遇するたび、すごく悲しい気持ちになりました。それしか得る手段がないのだから仕方がないのかもしれませんが、もらうことが当たり前、助けてくれるのが当たり前と考えるとすれば、彼らに未来はないと思います。与えることで、一時的な状況の改善にはつながるかもしれませんが。

彼らに会い、マイクロファイナンスや技術支援等、もっと勉強しなければならない。と気付きました。また、自分の意思で自由に学ぶ、そして働く手段があることに心から感謝したいと思いました。世界中で、個々次第で人生を変える機会を得られる仕組みが普及するよう、これから少しでも貢献してゆきたいです。



Natsuki Hatakeyama

オール ソフィアンズ フェスティバル (ASF) で待っています ～世代を超えて出会う場～ 経鷲会副会長 上原隆一 (76年経営卒)

毎年5月の最終日曜日は老若男女が「オール ソフィアン」の旗の下、世代を超えて語り、笑い、集います。経鷲会では毎年、普段は入ることのできないS Jハウスのガーデンで「ワイン講座」を開催しています。昨年は①NHK大河ドラマ「龍馬伝」が大人気放送中、②ワールドカップ南アフリカ大会開催間近、と言うことで土佐と南アフリカのコラボ企画「高知野菜を使った料理と南アフリカワインのマリアージュ」と題して講座が開かれました。美味しい野菜料理担当は、長年に亘る料理研究家で現在日本野菜ソムリエ協会認定の野菜ソムリエでもある76年経営卒の上原恭子。前日土佐清水であがった鰹の中から更に選りすぐった極上の鰹を稲藁で一気に炙ったものを、当日の朝直送で入手した「鰹のたたき茗荷ソース」など絶品料理が用意される。私は日本ソムリエ協会認定シニア・ワインアドバイザーの目で、それらお料理に合わせてワインをチョイスし解説します。毎回大盛況を誇る経鷲会の春の大切なイベントです。

今年はイタリアを取り上げ、美味しい野菜料理とイタリアワインで経鷲会会員の皆さまをお待ち申し上げます。是非ご来場ください。また今年からは経鷲会の重要な活動であり、卒業生と学部を繋ぐ大きな絆である「経鷲会研究奨励金（平成21年、22年、経済学部の学生5名ずつ、2年で計10名に各10万円を寄贈）」の主旨に賛同してくださる皆さまに、ご協賛をお願いしたいと存じておりますので、こちらの方もどうか宜しくお願いいたします。

これらの出会いからいくつもの貴重なネットワークが繋がっています。素晴らしい春のひと時を、素敵なガーデンで過ごしませんか。

次回は2011年5月29日(日)です。S Jガーデン東屋付近にて、AM10:30～PM16:00で実施しております(参加費無料)。

金・銀・銅祝の皆様おめでとうございます。
皆様、是非、奮ってご参加くださいませ！



2010年10月30日、経鷲会代議員会総会における講演にて、1962年経済学部経済学科をご卒業された、千代田商工株式会社前社長、池谷誠司氏にお話頂きました。

タイトル：

「私の家族・仕事・百名山」

【原稿執筆における背景】

池谷氏は、2009年10月に千代田商工株式会社の仕事を退社されてから、次の3つのような思いのもとに自叙伝の出版を決意されました。

① ～自分の生きてきた足跡を後世に書いたもので残したい～

ご自身がとても感銘を受けた書籍として、中野孝次氏の「清貧の思想」、「何を遺せますか」「老年を幸福に生きる」といった本の存在があったそうです。生きてこられる上での指針となった本との巡り合わせがあり、ご自身も執筆へと取り組むきっかけとなったそうです。

② ～太平洋戦争を幼年時代に経験した人間として記録を留めておきたい～

なぜ日本は太平洋戦争に突入したのか？戦争を体験した世代として、次の世代にその意味を投げかけておきたい、という思いになったとのこと。

③ ～特にこの本が今の若い人たちが悔いのない人生を送るための一助となれば良い～

この点が池谷氏が執筆された最大の動機となり、下の次の世代に何を遺せるか？という問いへの答えとなったそうです。

【どのように執筆を進められたか】

池谷氏は、原稿執筆開始前におおまかな構想を練り、ご自身の70年間の自分史を整理するために、詳細な年譜表を作成したそうです。

「何を遺せますか?」、池谷氏に大きな影響を与えた書籍のタイトルでもあるこの言葉。自分自身にその問いを投げかけたときに、自分が死後、遺せるものは自分の「人間性である」ということを見出し、それ以外のものは伝えても空しさがあったり、早晚失われるか消滅するものなのではと感じたそうです。ただ一つ、これだけは世に伝える価値があると思ったのが人間の生涯そのものであった、と。

【自叙伝発刊において】

この本を初版300冊つくられ、本は新宿紀伊国屋本店、八重洲ブックセンターに置かれることになりました。(※2010年9月末で売り切れとなりました。現在は、国会図書館にも蔵書されており館内での閲覧ができるようになっています。)また、この配本にあたって会社のOBと再会したり、富山、大阪、福岡、倉敷をまわって旧交を温めるような出会いもあったそうです。



向かって左：著者 池谷誠司氏、右：高祖理事長

Seiji Iketani

池谷 誠司 (いけたに せいじ)

1939年(昭和14年)3月、東京都渋谷区に生まれる。
1962年(昭和37年)3月、上智大学経済学部経済学科卒業。
同年4月、株式会社鐵興社入社(酒田大浜工場赴任)。
1964年(昭和39年)7月、本社金属部金属課へ。
1976年(昭和51年)4月、日本合同肥料(株)へ出向(中国との肥料交渉へ従事)。
1980年(昭和55年)9月、東洋曹達工業(株)(現社名 東ソー(株))塩ビゴム事業部(2年在籍)・金属事業部(9年在籍)・ファインケミカル事業部(1年6ヶ月在籍)。
1992年(平成4年)12月、燐化学工業(株)出向(6年在籍)。
1998年(平成10年)9月、東ソー株式会社退社。
同年9月、(株)千代田化学工業所入社、社長就任。
2008年(平成20年)5月、千代田商工株式会社、社長退任。

- ◆上智大「ソフィア経済人倶楽部」会員、「鐵友会(旧鐵興社OB会)」「上智大同窓会(ミナの会)」「金属OB会」等の幹事役に就任中。
- ◆新ハイキングクラブ陽光支部(登山)、ウォーカーズクラブ楽歩里(歩く会)、TOPインドアステージ津田沼(テニス)等のクラブに所属中。

また、この本をご購入頂いた金額は2010年11月初旬に全てをユニセフ、国境なき医師団、NPOノア、上智大学100周年記念事業の4団体に寄付されました。NPOノアは同じ1962年経済学部卒の伊藤輝夫氏が深く関わっておられる団体で、ここに対しての寄付は意欲的にやっていきたいとのことでした。

「私の家族・仕事・百名山」 池谷誠司

出版社：文芸社（2010/3/29）
ISBN-10：4286087719 ISBN-13：978-4286087719
発売日：2010/3/29

- 第一章：海外出張の思い出
- 第二章：海外取引の苦労と面白さ
- 第三章：出生から大学卒業まで
- 第四章：社会に出てから何をしたか
- 第五章：小企業の社長業を振り返る
- 第六章：ゴルフ人生40年
- 第七章：14年かけて百名山達成
- 第八章：家族旅行の思い出

池谷氏とお会いされたことがある方でもそうでない方も、誠実に生きてこられた人生観の詰まったこの1冊、是非手にとってお読みください。

※ 現在、上智大学内でこの本が置いてある場所は、①図書館内の学生ラウンジコーナーに1冊、②ソフィア会事務局内に2冊となっております。

（聞き手 エコノミアン編集部 2003年経済・経済卒 高増 文）

私の家族・仕事・百名山

ひたむきに生きて七十年の思い出を綴る

池谷 誠司



経鷲会 facebook FANPAGE を始めました！

上智大学経鷲会
大学

ウォール 上智大学経鷲会 · 最新情報

シェア: 投稿 写真 リンク 動画

何か書く

上智大学経鷲会
第二回SECゴルフ大会

昨年第一回に引き続き、同じコースで開催致します。3月11日に未曾有の天災に見舞われました。今ソフィアン皆で被災された方々への支援を始めています。ソフィア経済人クラブも一緒に支援に取り組み所存です。このコンペも会費を支援に充当する等仕組みを変更したいと考えています。できるだけ多くの皆様のご参加により、私たちの集いのひと時を通じ暖かな支援に少しでも役立ちたいと存じます。奮ってのご参加をお願いします。

詳細は、<http://www.sophiakai.jp/blog/keizaijinclub/>
...

続きを読む
4月4日 8:01 いろいろね！ コメントする

上智大学経鷲会
経鷲会役員会の開催 日時:4月7日(木)18:30~ 場所:ソフィアンズ倶楽部 テーマ:①エコノミアン完成 ②メールターゲット ③予算チェック ④AFSの件 ⑤ファカルティとの食事会 ⑥被災学生への義援金の件 できるだけ多くの方の出席をお願いいたします。また、交通事情が悪化していますので、議事が早く進行するよう勤めたいと思います。 総務担当:八木

3月31日 12:25 いろいろね！ コメントする

上智大学経鷲会
上智大学の被災学生は91人との連絡が、3月24日、ソフィア会常任委員会でありました。経済学部の学生も多くいるとのことですが、実数は未確認です。伊達万壽夫

3月31日 12:21 いろいろね！ コメントする

経鷲会ではより迅速に皆様へ情報をお届けするために、ソーシャルネットワークサービスのフェイスブックにファンページ「上智大学経鷲会」を設けました。

こちらでは随時、経鷲会の情報をご覧頂き、コメントを通じてご意見を寄せて頂くことができます。フェイスブックをご利用の方は是非こちらにアクセスし、「いいね！」ボタンを押してください。



パソコンからでもスマートフォンからでも簡単にアクセスできますので是非ご活用ください。



卒業生の紹介

株式会社毎日コムネット

代表取締役専務 原 利典

(1975年理工学部機械工学科卒業)



E-mail : hara@maicom.co.jp

Message : 1979年に起業をし、2002年に、JASDAQ市場に上場致しました。土地の有効活用策として“学生マンション・学生寮”の事業を、企画・設計から募集・管理まで行っています。個人・法人併せて170棟・7000戸を管理しています。お気軽にご相談下さい。

マック・リアルエステート株式会社
株式会社センチュリープランニング

代表取締役会長 清水 陸男



E-mail : century-realestate@comet.ocn.ne.jp

Message : ソフィアの皆様が安心して、「不動産の売りたい・買いたい・借りたい・貸したい！」を実現したいと思っています。『気軽に何でも相談が出来る不動産屋さん』です。

上智不動産ソフィア会

<http://sophia-estate.com>

Sophia Real Estate Association

今から5年前に創立された「不動産ソフィア会」。現在は、不動産のみならず、ファンド系・建設・金融・法務・税務 etc の120名のソフィアンと、月例の行事を行っております。石澤学長にも総会にてご講演を頂くなど学内での積極的なコミュニケーションを行うだけでなく、上智だけに留まらず、早慶明法立はじめ15大学4000名の各校の不動産業OBネットワークと連携をしています。

上智大学OBで不動産関連の職業に従事している方、仕事の情報交換や共同事業を行うなど、自身のビジネスチャンスをつかむ機会を手にしませんか？単なる親睦だけの団体ではありません。ぜひ、仲間になり実際の不動産ビジネスの中を広げましょう！

APREX中央不動産鑑定株式会社

代表取締役不動産鑑定士 小國 敏雄

E-mail : aprex@aprex.co.jp

Message : 毎月1回、ソフィアンズクラブでワインセミナーを実施しております。是非奮ってご参加くださいませ。



外食の日

飲食店にエネルギーを!

ちょっと日本が元気がない今だからこそ、外食を通じて少しでも美味しく楽しい時間を過ごして頂けたらと思います。

<http://www.gnavi.co.jp/gaishokunohi/>

経覧会広報委員 高増 文 (2003年 経済・経済卒)



SophiansNet よりワインセミナーのご案内

SophiansNetではワインの定例会をソフィアンズクラブで毎月、開催しております。出身学部にとらえず、御参加下さる様、御願い申し上げます。尚、女性、学生は、何れの行事も無料です。

(上智大学内・ソフィアンズクラブ 内TEL 03-3238-3075)

5月11日(水) PM6:30～ 軽なお食事、ワイン等を御用意させていただきます。



SOPHIA 100th ANNIVERSARY
2013

上智大学は2013年に創立100周年を迎えます。

SOPHIA, A UNIVERSITY WITH A GLOBAL MISSION

<http://sophia100.jp/>

～世界に並び立つ大学へ～

被災学生への募金のお願い

会員の皆様には、日頃より上智大学経鷲会の会費・研究奨励金・寄付などにご協力頂き、感謝申し上げます。

2011年3月11日に発生した東日本大震災により被災した本学学生を支え、励まし、就学継続を支援するために緊急募金を募集します。下記要領でいただいたご寄付は、上智大学の被災学生の奨学支援等のために使用させていただきます。

上智大学経鷲会は、上智大学およびソフィア会と協働で今回の募金活動を実施するものです。会員皆様の温かいご支援を母校の学生に届けたく、宜しくご協力をお願い申し上げます。

記

1. 全被災学生： 87人（4月7日現在）
2. 対象支援学生： 上智大学在籍学生
 *具体的な配布手段は別途、経鷲会ソフィア会ブログサイト（下記）でご連絡申し上げます。
<http://www.sophiakai.jp/blog/economyan/>
3. 募金の目的： 被災学生の学生生活支援として
 *被災状況により、授業料や学生納付金の「全額から1/3」の免除が決定しております。
4. 募金の方法：
 - 1) 同封の郵便振込用紙に、「被災学生支援のため」と記入して頂き、募金金額を記入してください。
 - 2) 大学100周年記念事業のクレジットカードによる募金
 下記のURLにおいて、申込画面の通信欄に「経鷲会 被災学生支援のため」と明記して募金してください。
http://sophia100.jp/15_news/index.html#11031601
 *経鷲会ソフィア会ブログサイトにも案内を掲載しますので、そちらからアクセスしてください。

02	東京	払込取扱票	通常払込料金 加入者負担
口座番号		金額	千 百 十 万 千 百 十 円
0 0 1 5 0 8		5 3 7 5 5 9	
上智大学経鷲会		料 金	特殊 取扱
各票の章印欄は、ご依頼人において記載してください。	* 1. 会費（年間） 3,000円		下記記入情報を個人情報保護法に基づいて、経鷲会の目的のみに利用させていただきます。尚、拒否する会員の方は、下記の□に×印を記入してください。 <input type="checkbox"/> ：拒否します
	2. 総会参加費(懇親会) 3,000円		
	3. 寄付金 円		
	4. 研究奨励金 2,000円		
合計 円		被災学生支援のため 〇〇〇〇円	
* (メールアドレス):			
* (卒年、学科) 年 学科			
* おところ (郵便番号 -)		受付局日附印	
* おなまえ 様			
* (電話番号 -)			
裏面の注意事項をお読みください。(私製承認東第25940号) これより下部には何も記入しないでください。			

「被災学生支援のため 〇〇〇〇円」と金額と一緒にご記入ください。

払込金受領証			
口座記号番号		千 百 十 万 千 百 十 円	
0 0 1 5 0 8		5 3 7 5 5 9	
上智大学経鷲会			
加入者名		金額	
上智大学経鷲会		おなまえ	
ご依頼人		様	
料 金		受付局日附印	
特殊取扱			

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。
切り取らないで郵便局にお出しください。